平成 29 年度普及指導活動に係る外部評価の実施状況について

1　趣旨

広島県の農業技術指導所において，より効果的かつ効率的な普及指導活動を展開するために，当年度の普及指導計画から選定した普及課題について幅広い視点から外部委員より意見を聴取し，その評価結果を次年度の普及指導計画等へ反映させることをねらいとして実施した。

2　外部評価会議の内容

（1）外部委員の構成

分野	所属・役職等	人数
先進的な農業者	指導農業士・農園園主	1名
若手・女性農業者	指導農業士・農園園主	1名
農業関係団体	農業団体課長	1名
消費者	消費者団体事務局長	1名
学識経験者	大学准教授	1名
マスコミ	新聞社論説委員	1名
民間企業	経営コンサルティング会社代表取締役所長	1名

（計７名）

（2）評価対象

★<u>普及指導計画に定められた成果目標の達成状況</u>

普及指導計画の対象５区分（新規就農者，認定農業者，経営発展志向農家，参入企業，集落法人）のうち，「認定農業者」・「経営発展志向農家」・「参入企業」を評価対象とした。（全体 495 課題のうち 192 課題）

※192 課題を一覧として評価対象とするとともに，代表的な５課題について，より詳細な評価を実施した。

【代表課題】

課題番号	主な品目	対象分類	担当指導所
①	水稲	認定農業者	西部
②	レモン	経営発展志向農家	西部
③	なし	認定農業者	東部
④	ぶどう	参入企業	東部
⑤	キャベツ	認定農業者	北部

★<u>普及指導活動の体制・普及職員の資質向上の取組</u>

評価対象を次のとおりとした。

・組織体制

組織図・普及職員担当別人数・普及拠点及び普及指導員数の過去 10 年の動向

・普及職員の資質向上の取組

普及職員研修体系と実施状況

（３）評価項目

<table>
<tr><th>評価対象</th><th colspan="2">評価項目</th><th>評価の視点（例）</th></tr>
<tr><td rowspan="5">普及指導計画に定められた成果目標の達成状況</td><td colspan="2">評価対象課題
全体の達成状況</td><td>○普及活動は計画どおり進んでいるか
○普及活動の目標は達成しているか</td></tr>
<tr><td rowspan="3">代表課題</td><td>普及指導活動の計画・課題設定</td><td>○課題の現状把握，現状分析が的確に行われているか
○普及の支援対象として，対象者の選定は適切か
○課題の重要性が高く，課題解決・目標達成に有効な計画か
○目標の設定，成果指標は適切か</td></tr>
<tr><td>普及指導活動の進め方</td><td>○活動方法と時期は適切か
○効果的な所内の活動体制となっているか
○関係機関との連携・役割分担はできているか</td></tr>
<tr><td>普及指導活動の成果</td><td>○普及指導活動の寄与により，目標が達成できたか（見込めるか）
○成果を的確に把握分析し，今後の活動に向けた課題が整理できているか
○他産地，他の経営体への波及効果があるか（見込めるか）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">普及指導活動体制普及職員の資質向上の取組</td><td colspan="2">組織体制</td><td>○普及指導センターの設置数及び設置場所は妥当か
○普及指導センターの組織体制は，効率的な体制か</td></tr>
<tr><td colspan="2">普及職員の設置</td><td>○普及職員の設置数は妥当か
○普及職員の配置は妥当か</td></tr>
<tr><td colspan="2">普及職員の資質向上の取組</td><td>○普及職員の研修体系は妥当か
○普及職員の研修内容は資質向上に資するものか</td></tr>
</table>

（４）外部評価会議の開催状況

【第１回】※外部委員への事前説明

・日時：平成 29 年７月 21 日（金）10：00～15：30

・場所：県内なし農園事務所，なし栽培ほ場（現地），ぶどう栽培ほ場（現地）

<table>
<tr><th>時間</th><th>内容</th><th>参加者</th></tr>
<tr><td>10：00～12：00</td><td>・普及指導活動の説明
チャレンジプラン，普及指導体制，普及指導計画等
・評価対象課題の概要説明</td><td rowspan="2">外部委員（７名出席）
農業技術指導所
（所長，担当者）
農業技術課</td></tr>
<tr><td>13：00～15：30</td><td>・現地調査
評価対象課題のなし及びぶどう栽培ほ場現地確認
課題対象者からの概要説明，質疑応答等</td></tr>
</table>

【第２回】※外部評価の実施

・日時：平成 30 年１月 24 日（水）9：30～15：00

・場所：県立総合技術研究所　農業技術センター

時間	内容	参加者
9：30～9：50	・外部評価実施概要の説明	外部委員（６名出席） 農業技術指導所長 農業技術課
10：00～12：00	・評価課題実績の説明 （平成 29 年度普及指導活動実績報告会へ出席）	外部委員（６名出席） 報告課題関係者（市町，ＪＡ，農業者），農業技術指導所 農林水産事務所（農林事業所） 農業技術センター，県庁関係課，農業技術課
13：00～13：55	・評価課題の質疑応答	外部委員（６名出席） 農業技術指導所(所長，担当者) 農業技術課
13：55～14：10	・評価事項説明 （普及指導組織体制，普及職員数の動向，研修体系等，評価課題【一覧】実績まとめ）	外部委員（６名出席） 農業技術課
14：10～15：00	・評価及び意見整理	

３　評価の概要と今後の対応方針

課題番号①（認定農業者代表課題）

１　経営体の概要

・地域の担い手として，農地を集積している。併せて，地域の飼料稲生産利用組合のＷＣＳ用イネの種子生産，育苗，収穫，堆肥運搬のオペレーター役を担っている。

・水稲の一部品種における低収対策，労務不足のため作業の省力化，軽作業化が課題である。

２　普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区　分	実施状況，成果等の概要
水稲 栽培管理支援	活 動 経 過	・低収の要因となっている疎植栽培改善のため，密播苗栽培技術の導入を提案し，技術指導を行った。
	成果・課題	・密播苗栽培技術の導入により，育苗箱数が減少し省力化につながった。 ・播種機の調整不良により，欠株が多発生し，低収となった。 ・所有している田植機に最適な密播密度を検討する必要がある。
作業改善支援	活 動 経 過	・労務管理のため，ホワイトボードを活用した作業管理表の作成を支援した。 ・作業日誌を確認し，作業が遅れた原因について改善指導した。
	成果・課題	・春作業受託の作業忘れがなくなり，円滑に作業を行うことができた。 ・更に作業の効率化を図る。
ＷＣＳ用稲 栽培管理支援	活 動 経 過	・定期的に圃場巡回し，雑草対策及び水管理について指導を行った。
	成果・課題	・適期に除草剤を使用することができ，雑草の発生が減少した。 ・実需者の要望により高刈りを行ったため，収量は約 11％の増加にとどまった。 ・栽植密度や施肥量について検討し，さらに多収化を図る必要がある。

３　評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映，活動方針
○県域の農家（特に法人）がかかえる問題に即した課題である。 ○作業の「見える化」に取り組んだ点は評価できる。 ○失敗が活かされているという兆しが見える。	○設備投資等，採算性等（投資効率）を考えて，計画的に投資計画を作るべきである。 ○ＪＡ等との連携が不十分であり，改善が必要である。 ○さらに規模拡大の意向があるが，規模拡大よりも，まず生産技術を安定させ，経営面を確立させることを優先する必要がある。	○経営状況の的確な把握及び，さらなる投資については，投資効率が最大となるよう営農計画等の見直しを支援する。 ○本経営体は，ＪＡ系統出荷を行っていないため連携が不十分となっているが，地域の栽培技術等の情報を営農に活かすため，今後はＪＡ等との連携に努める。 ○自らの技術レベルを把握し，栽培技術及び経営管理上の課題を明確にして，生産技術の安定及び経営の確立ができるよう支援を行う。

課題番号②（経営発展志向農家代表課題）

1　経営体の概要

・平成 29 年２月に設立し，水田を活用してレモン栽培を行う法人であり，大規模レモン団地の担い手候補として位置づけられている。
・水田でのレモン栽培とレモンの早期成園化及び農地集積を図り経営を軌道にのせることが課題である。

2　普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区　分	実施状況，成果等の概要
水田での レモン苗木 栽培管理支援 （Ｈ地区）	活 動 経 過	・生育調査の結果に基づき，栽培管理指導を行った。
	成果・課題	・概ね順調に生育したが，約５％の苗木で落葉が発生した。 ・落葉の原因を明らかにし，対策を講じる必要がある。
大規模レモン団地（Ｎ地区）における 栽培適否判断	活 動 経 過	・盛土をした水田ほ場で，栽培環境及びレモンの生育調査を行い，栽培上のリスク要因の整理を行った。 ・県研究機関と連携し，レモンの滞水試験を行った。
	成果・課題	・滞水期間が３日以内であれば，レモンの生育に大きな影響がないことが明らかになった。 ・隣接する調整池の樋門や排水ポンプの管理を適切に行い，盛土を可能な限り高くして栽培する必要がある。
将来の経営発展を見据えた営農計画作成	活 動 経 過	・ＪＡと連携し，営農計画作成を支援した。
	成果・課題	・大規模レモン団地での栽培を含む営農計画が完成し，生産者及び関係機関と，将来の経営イメージを共有することができた。

3　評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映，活動方針
○国産レモンの需要，人気，注目度が高まっている中，県産品の生産増につながる取組には期待したい。 ○新しいことへのチャレンジや産地の育成のため活動となっている。	○農業者の所得や将来的な展望などを考慮すべきである。具体的な課題の抽出ができていない。 ○各関係機関との役割・責任範囲を明確にしておく必要がある。 ○６日間の滞水では枯死する検証と３日間の滞水では問題ないと説明がなされたが，事業実施の判断を行う上で極めて重要な要素の一つであり，経営上のリスクが高いことから，改めて検証が必要である。	○対象経営体の目指す姿（売上目標・経営規模・目標年次等）を明確にした上で，実現に向けた営農計画の見直しを行う。 ○普及活動を行う際には，各関係機関との役割分担を明確にし，活動を行っている。本課題は，営農開始前の課題であるため，今後，市，ＪＡ等の関係機関との役割分担及び責任範囲を明確にした活動に努める。 ○滞水被害リスクを低減できる栽培技術（暗渠機能を併せ持つ通気管の設置）を導入する。

課題番号③（認定農業者代表課題）

1　経営体の概要

・県内のなしの栽培面積の約40％を占める経営体である。

・開園から54年を迎えており，老木化及び病害の発生により生産性が低下しているため，新技術の導入及び適切な防除対策により収量を確保する必要がある。

2　普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区　分	実施状況，成果等の概要
ジョイント仕立ての技術確立	活動経過	・平成27年度から設置している実証ほを用いて，現地に対応した栽培技術の確立に取り組んだ。 ・技術開発先の試験場を視察し，現場指導に活用できる最新知見を得た。
	成果・課題	・実証ほでは順調な生育が得られ，結果枝を確保することができた。 ・視察で得た知見を，実証ほを用いて現地確認する必要がある。
黒星病対策の徹底	活動経過	・重点対策期には，防除機で往復散布するよう指導した。 ・毎月黒星病の発生状況調査を行い，調査結果を基に耕種的防除を行うよう指導した。
	成果・課題	・６月中旬の発生果率を，前年の16.9％から0.5％まで抑えることができた。 ・耐性菌の発生を抑制するため，DMI剤の使用回数を減らす必要がある。
樹勢強化せん定の導入	活動経過	・実証樹を設置して生育調査を行い，樹勢強化せん定の課題を整理した。 ・整理した課題を基に，せん定講習会を実施した。
	成果・課題	・実証樹の単収が幸水では3.3ｔ，豊水では4.5ｔとなり，技術の導入により多収となることが実証された。 ・樹勢強化せん定を導入により作業時間が増加するため，近隣農家との労務提携等の対策をとる必要がある。

3　評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映，活動方針
○現状分析が的確になされており，課題が明確で現場が求めていることに対応できている。 ○県外のノウハウ（先進事例）に注目して持ち帰り，さらにブラッシュアップできている。 ○多発していた黒星病の対策を講じたことにより，発生を抑制できている。	○なし	○なし

課題番号④（参入企業代表課題）

1　経営体の概要

・平成 20 年に設立し，ぶどうを 2.5ha 栽培している。

・農場の責任者が交代し，新たな体制のもとで計画的に栽培管理を行う必要がある。

2　普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区　分	実施状況，成果等の概要
適期作業の励行	活動経過	・表計算ソフトを用いて，ガントチャート式の作業計画の作成支援をした。 ・適期作業を円滑に進めるため，省力化技術の導入を支援した。
	成果・課題	・標準作業時間や日作業量を把握することができ，大部分の作業を適期内に終わらせることができた。 ・ジベレリン１回処理と養液土耕栽培の導入により，作業が省力化され，適期作業を行うことができた。
選果作業体系の改善	活動経過	・選果場のレイアウトを提案し，選果体系及び選果場レイアウトの改善を指導した。 ・近隣の先進経営体の協力を得て，従業員に対して選果について研修を実施した。
	成果・課題	・選果体系及び選果場レイアウトの改善及び研修により，作業効率と従業員の技術力が向上し，１日当たりの選果作業時間を２時間程度短縮できた。
シャインマスカット冷蔵出荷の実施	活動経過	・冷蔵出荷に適した収穫時の熟度，等級，階級の選定方法を指導した。 ・穂軸給水の手法について指導した。
	成果・課題	・関係機関との連携により，東京大田市場への販路が確保できた。 ・出荷時のロス軽減のため，冷蔵用のかけ袋の改善を検討する。

3　評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映，活動方針
○生産，選果作業，販売，経営改善まで視点が及んでおり，明確な課題が設定されている。 ○具体的な課題に対して，指導所が積極的にコミットして，生産者とともに課題を解決しようという姿勢が見られる。 ○成果が表れており，生産者との信頼関係が生まれている。	○なし	○なし

課題番号⑤（認定農業者代表課題）

1　経営体の概要

・平成 25 年からキャベツ栽培に取り組み，急激に面積を拡大している県内最大規模のキャベツと水耕栽培を行う生産者である。
・標高差を活かしたキャベツの作型による周年出荷で大規模経営を目指しており，県内各地にほ場があるため，各地域に適した栽培技術の構築，組織管理等が課題である。

2　普及指導計画の実施状況と成果等

活動項目	区　分	実施状況，成果等の概要
ほ場管理 改善支援	活 動 経 過	・経営，技術課題，農地集積，整備事業等を検討する会議を月例で設置し，検討を行った。 ・ほ場別収量の分析及び経営実態の聞き取り損益分岐点を試算した。
	成果・課題	・月例会議が，ほ場の進捗状況のチェック，各種課題の検討，関係機関との連携の場として機能した。 ・ほ場別収量の分析結果により，生産性の高いほ場でキャベツの生産を行うこととなった。 ・部門別収支を把握するため，記帳を開始し部門別の収支実態を分析する必要がある。
栽培技術 向上支援	活 動 経 過	・害虫図鑑を作成し，経験年数の短い社員の教育を支援した。 ・根こぶ病対策のため，土壌改良資材の実証ほを設置し，調査・検討を行った。
	成果・課題	・害虫図鑑を活用することにより，ヨトウムシ等の発生初期に防除ができた。 ・土壌改良資材の有用性が認められたため，来年度の導入にむけてさらに検討を行う。
経営管理 改善支援	活 動 経 過	・JGAP 認証取得に向け，先進経営体の視察研修を実施し，必要書類の作成に向けて毎月進捗状況を確認した。
	成果・課題	・社員が JGAP 指導員資格を取得したが，販売先との意見相違のため認証取得は見送ることとなった。 ・GAP 認証を取得する意義や必要性は強く認識されているため，継続して検討する。

3　評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映，活動方針
○農村での周年雇用という社会的な意義が大きい課題を設定している。 ○的確な情報提供がなされており，生産者が正確なデータに基づいて戦略構築ができている。 ○ビジネスとして成り立っており，エリアの拡大は他経営体のモデルになる。	○課題の優先度・重要度の位置づけが明確でないため，最も重点的に取り組むべき事項の優先順位が曖昧になっている。 ○ここで得られた知見が，この経営体の経営改善のみにとどまらないよう，他の経営体への波及効果を想定して普及活動に取組む必要がある。	○規模拡大を進める経営体ということで，ほ場管理，経営管理などのマネジメント部分が課題となっており，より重点化をしながら事業等を活用して支援を行っていく。 ○大規模省力経営モデルとして，ほ場作業と工程を点検し，作業別マニュアルにまとめ，県域で共有しながら，大規模経営体支援等に活用していく。

認定農業者，経営発展志向農家，参入企業一覧課題

１　対象

・県内 192 経営体の個別課題。

２　普及指導計画の実施状況と成果等

・平成 29 年度の「売上目標」「成果指標の達成状況」「普及指導活動の成果と課題」「今後の対応」を一覧として整理した。

３　評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	次年度普及指導計画等への反映，活動方針
○生産技術の向上について，しっかりとした視点がある。	○農業者の持続的発展という視点から，生産管理・労務管理・販売・マネジメントの視点が必要である。 ○優れた生産技術の普及や経営における業務改善等に向けた取組は，指導所や普及組織にとどまらないよう，県内の農業者及び農業関係機関と共有できる仕組みを構築する必要がる。	○従業員を雇用して規模拡大を推進する経営体を中心に，生産工程管理や労務管理等のマネジメント力強化に努める。 ○普及活動から得られた成果は，速やかに技術情報として取りまとめ，品目ごとで県域の会議や現地検討会等をＪＡ等関係機関と開催し，常に情報共有を図っている。さらに，連携を強化して農業者への早期の普及に努める。

普及指導活動体制・普及職員の資質向上の取組

1　普及指導活動体制

・広島県農業技術指導所管内図，組織図，普及職員担当別数，普及拠点及び普及指導員数の過去 10 年の動向

2　普及職員の資質向上の取組

・広島県普及指導員研修体系，研修実施状況

3　評価の概要及び今後の対応

評価できる事項	改善すべき事項	今後の対応
○地域課題に沿ったテーマで指導がなされている。 ○少ない職員体制の中で精一杯仕事しているのが分かる。 ○問題意識や課題解決能力の高い職員が多い。	○広島県において，農林水産業は大変重要な基盤であり，担い手の経営の安定化・高度化が急務となっている状況を踏まえれば，普及指導体制の一層の強化が求められる。 ○定期的な研修を重ねるとともに，現場の意見や外部の指摘を取り入れる機会を増やす必要がある。 ○職員間で相互の情報交換をする等，職員の能力の底上げを図る取組が求められる。	○担い手が将来の生活設計を描ける経営の確立を目指して，意欲ある経営体に対して安定化及び高度化に特化した普及指導活動を展開していく。 ○普及指導員研修は勤続 15 年目までの職員を対象に体系的に実施している。毎年研修対象者及び研修講師に対し研修内容等についてアンケートを実施し，改善していく。 ○農林水産省等の研修にで習得した技術の普及指導員間の共有に努める